

ロシア 東欧 経済速報

社団法人 ロシア東欧貿易会 〒104-0033 東京都中央区新川1-2-12 金山ビル Tel.(03)3551-6218
ロシア東欧経済研究所 <http://www.rotobo.or.jp> [年間購読料・送料共前納 18,000円]

2000年(平成12年)11月25日 No. 1177

目次

2000年1～6月のCIS経済	1
CIS諸国通貨の最新為替レート	7
ユーゴスラビア連邦共和国政府指導部人事一覧	8
ユーゴスラビア連邦共和国議会の新勢力	8

2000年1～6月のCIS経済

はじめに 今回の速報では、CIS統計委員会『統計通報』にもとづき、2000年1～6月のCIS諸国の経済指標を紹介するとともに、主要CIS諸国の最新の経済事情を概観する。

CIS全般 CIS諸国の経済は1998年8月のロシアの金融危機後の混乱を脱して、全体としては回復基調が明確となった。ソ連解体後、一度もプラス成長となったことのないウクライナも上半期5.0%と成長を記録したほか、カザフスタン、トルクメニスタンが10%を越える高い伸び率を記録した。

回復してきた背景としては、ロシア経済が好調(1～6月のGDPはプラス7.5%)となってきたことが大きな要因である。ロシアの輸入動向をみると、2000年1～6月のCIS域外からの輸入が減少したのに対して、CIS域内からの輸入は約4割も増え、ロシアの需要増がCIS経済を引っ張っていることをうかがわせる。

また、産油国、とくにロシアとカザフスタンに当てはまることであるが、国際原油市場での原油の高騰が成長の要因となっている。とりわけ、カザフスタンの場合、石油部門等への投資増(投資全体が対前年同期比29%増)、工業生産増(16.3%増、とくに原油が16%増)、輸出増(ほぼ倍増)、そして投資増という一定の成長の好循環がみられ、CIS諸国のなかで唯一、本格的経済成長の兆しがみられる国となった。

タジキスタンは内戦という厳しい状況を抜け出し、IMFからの支援プログラムが10月に承